

# 新年を迎えて



新年明けましておめでとうございませう。平成の世も三十年という節目の年に当たり、皆様には健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年、V・ファーレン長崎のJ1昇格、本県初開催となった「第71回全国茶品評会」での農林水産大臣賞及び産地賞の受賞、「朝鮮通信使」に関する記録「ユネスコ「世界の記憶」への登録など、県民の皆様のご努力が多く実を結んだ年となりました。関係の皆様にあらためて敬意を表します。

さて、本年は長崎県総合計画も三年目を迎え、折り返しの年となります。これまで以上に各市町、企業や団体、地域の皆様方と力を合わせて、県民所得向上や良質な雇用の場の拡大、地域と産業を支える人材の育成などに積極的に取り組みながら、若年層の県内定着やU・I・Jターン対策、結婚・子育て支援などの人口減少対策を多面的に展開し、県民の皆様により具体的な成果を実感していただける年にしたいと決意を新たにしております。

特に、人口減少が著しい離島地域の振興については、本県選出国會議員の皆様の尽力により成立・施行された有人国境離島法に基づき、安定した雇用の場の創出・拡大に取り組んでいるところであり、引き続き、市町をはじめ地域の皆様と知恵を出し合い、国の交付金を最大限に活用しながら地域の活性化に全力を注いでまいります。

# 祝! V・ファーレン長崎 J1昇格!

## クラブ創設13年、2013年のJ2参入から5年目でつかんだJ1への切符

11月11日、カマタマーレ讃岐を迎えたホーム最終戦のリーグ第41節。勝てばJ1昇格が決定するV・ファーレン長崎を応援するため、諫早市のトランスコスモスタジアム長崎にはホームゲームでのクラブ史上最多となる2万2,407人の観客が集まりました。その声援に答えて、3-1と勝利をおさめ、J1への自動昇格となるリーグ2位が確定しました。

2018シーズンでは、戦いの舞台をJ1に移し、V・ファーレン長崎の新たな航海が始まります。



## 「御朱印船」を活用したベトナム・クアンナム省での本県のPR

本県の官民で構成する「御朱印船プロジェクト実行委員会」は、長崎県とベトナムとの交流関係のさらなる発展のため、日越友好の象徴である「御朱印船」をベトナム・クアンナム省に寄贈しました。寄贈式典では、「御朱印船」のお披露目や長崎くんちの踊町の本石灰町自治会などによる船回しが披露され、御朱印船が常設展示される「日越文化スペース」の落成式には安倍首相とベトナムのフック首相も出席されました。

クアンナム省をはじめベトナムとの友好交流関係を大切にしながら、観光客の誘致や県産品の輸出の拡大などにつなげていきます。



日越両国の首相も式典に出席



本石灰町自治会などによる長崎くんち「御朱印船」の船回しの様子

九州新幹線西九州ルートについては、導入予定のフリーゲージトレインの開発に不具合が生じたことから、「九州新幹線(西九州ルート)検討委員会」において、本年3月末を目処に国土交通省から報告される整備方式ごとの調査結果を踏まえ、どのような方式で整備を進めていくかできる限り速やかに一定の結論を得ることとされたところであります。県としては、現在フル規格で整備中の武雄温泉(長崎間のインフラを最大限に活かし、山陽新幹線直通運行による関西・中国圏との交流拡大を図るためにも、全線をフル規格で整備することが最善の選択肢だと考えており、関係の皆様と一体となつて、その実現を目指してまいります。また、昨年11月には長崎駅の駅舎デザインも示されたところであり、この新たな駅が県民の皆様や来訪者に親しまれ、長崎の新しい顔となることを期待しております。

アジア・国際戦略については、昨年、中国・福建省では、本県に渡来後わが国に多大な影響を与えた「元禪師ゆかりの日中黄檗文化交流大会を開催し、交流を深めました。ベトナム・ホイアン市では、民間の皆様と協力して寄贈した「御朱印船」の公演を行うとともに、日越両国首相が立ち会った中、「日越文化スペース」の落成式でもお披露目し、ベトナムと本県のゆかりを広く周知しました。今後とも、本県と海外との歴史的なつながりを大切にしながら、人的交流や経済交流の拡大に努めてまいります。



長崎県知事 中村 法道

新年からは、いよいよ新しい県庁舎が開始します。本県が直面している様々な課題の解決に向け、これまで以上に県民の皆様と力を合わせて取り組んでいかなければならないと考えております。新県庁舎を行政と県民の皆様との協働の拠点とし、夢と希望にあふれる長崎県づくりに全力を注いでまいりますので、県政への積極的なご参画をお願いいたします。

さらに本年は、6月に開催される世界遺産委員会において、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の登録の可否が審議されます。世界遺産登録の実現に向けて、引き続き国や関係自治体と連携を図りながら全力を傾注してまいります。

佐世保地域の特定複合観光施設(I-R)区域整備については、ギャンブル依存症対策に万全を期すとともに、日本型I-Rの導入を外国人観光客誘致の好機ととらえ、魅力的な施設整備を進め、地方創生に寄与するものにと考えております。引き続き、県民の皆様のご意見を伺いながら、本県にしかできない国際競争力のあるI-Rの導入実現に向けた基本構想の策定を進めてまいります。